

# 地域スポーツチームにおけるチーム・アイデンティティが コミュニティ感覚に及ぼす影響

—高校部活動チームにおけるチーム・アイデンティティの高低差からの検討—

久保 雄一郎\*

山口 泰雄\*

## 抄 録

本研究の目的は、地域のスポーツクラブが地域社会に与える影響を明らかにすることであった。具体的には、高校部活動クラブへのチーム・アイデンティフィケーション（以下：チーム ID）とコミュニティ感覚との関係性について検証を行った。本調査では、調査対象者を福井県鯖江市の市民とし、対象チームを鯖江高校体操部として設定した。鯖江市は世界体操選手権大会の開催や行政主導による体操専用の体育館の建設など行政と競技団体が協働して、体操振興を実施している。鯖江高校体操部は、福井国体以来、福井県内の体操の強化拠点校となっており、高校総体総合優勝を果たすなど鯖江市の象徴的なクラブである。

調査手法は、チーム ID 尺度を高校部活動に適応するために専門家によるトライアングレーション、インタビュー調査等を実施し修正を行った。本調査では、配票枚数 500 枚に対し、有効回答数が 248 枚 (49.8%) であった。チーム ID の合成得点を算出し、チーム ID 高群と低群に分類した。高群と低群におけるコミュニティ感覚の測定項目の平均値を比較するために  $t$  検定を実施した。また、チーム ID を構成する 5 因子の因子得点を独立変数、コミュニティ感覚を構成する 3 因子の因子得点を従属変数として、ステップワイズ法による重回帰分析を実施した。 $t$  検定の結果、全ての項目でチーム ID 高群が低群より高いコミュニティ感覚の値を示し、11 項目中 10 項目で統計的に有意な差がみられた。つまり、チーム ID 高群の方が低群よりもコミュニティ感覚が高いことが明らかになった。重回帰分析の結果、男性は「心理的結びつき」が全てのコミュニティ感覚の因子に影響を与えていた。一方で、女性は、「行動的関与」と「公的評価」が「地域への愛着」に影響を与え、「心理的結びつき」と「個人的評価」が「共通の価値観」に影響を与え、「行動的関与」が「近隣との関わり」に影響を与えていた。

キーワード：チーム・アイデンティフィケーション、コミュニティ感覚、スポーツ振興、部活動

---

\* 神戸大学 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-1

# The Influence of Team Identification on Sense of Community in Local Sporting Clubs

—Comparison on Team Identification between High and Low Score Groups—

Yuichiro Kubo \*  
Yasuo Yamaguchi \*

## Abstract

The purpose of this research was to examine the Influence of Team Identification (TID) on Sense of Community in Local. Specifically, we demonstrated the relationship between TID and Sense of Community of local residents.

Regarding the setting of this research, the respondents were citizens of Sabae City, Fukui Prefecture and the target team was set as the Sabae High School gymnastics club. Sabae City has been promoted gymnastics by collaborating with the city government and the sporting organizations. The Sabae High School Gymnastics club has achieved excellent results so far and it is regarded as a symbolic club of Sabae City.

The research method consisted of two steps. First, triangulation by researchers who specialized in Social Science and interview with informant were conducted in order to develop the modified Team Identification scale (Fujimoto et al., 2012). Next, the Questionnaire was distributed to the local residents who participated in the events. The response rate to the questionnaire was 49.6% (n=248). In terms of data analysis, t-test was conducted to compare the average value of Sense of Community items in the high group and the low group. Multiple regression analysis was performed to examine the relationship between multiple dimensions with team identification as the independent variable and Sense of Community as the dependent variable.

As a result, t-test TID high group showed a higher Sense of Community than the low group in all items and statistically significant differences were extracted in 10 items out of 11 items. Multiple regression analysis showed that “Interconnection of self” influenced all factors of Sense of Community in men. In women, on the other hand, “Behavioral involvement” and “Public evaluation” had an influence on “Attachment”, “Interconnection of self” and “Personal evaluation” had an influence on “Member connectedness”, “Behavioral involvement” had an influence on “Sense of presence”.

Key Words : Team Identification、Sense of Community、Sport Promotion、Club Activity

---

\* Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University 3-11, Tsurukabuto, Nada Kobe, Hyogo 657-8501

## 1. はじめに

わが国では2013年に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催が決定し、2015年10月にスポーツ庁が設置されるなどスポーツへの期待が高まっている。第二期スポーツ基本計画では人口減少や高齢化が進む中、スポーツ資源を地域の魅力づくりやまちづくりの核とすることで、地域経済の活性化など地方創生に貢献することが期待されており、スポーツからの地方創生が掲げられている。近年、スポーツを通じたまちづくりが多くの自治体で実施されているが、研究蓄積は少なく、プロやトップスポーツチームやメガ・イベントなどの研究に偏っている。

スポーツが地域社会に及ぼす影響に関する多くの研究が行われている。スポーツチームやクラブが地域に及ぼす社会的効果に関する研究において、ソーシャルキャピタル（長積，2008；工藤ら，2014）や地域愛着（二宮，2010；菅ら，2017）などが検証されている。藤本ら（2014）は市民のコミュニティ感覚にプロチームのアイデンティフィケーションが影響することを明らかにしている。しかし、研究の多くがプロチームやトップチームに関する研究であり、地域のスポーツクラブに関する研究は少ないのが現状である。スポーツチームやクラブが地域に及ぼす影響を明らかにすることは、今後の地域におけるスポーツ振興を行う上で重要であるといえる。

## 2. 目的

本研究の目的は、地域のスポーツクラブが地域社会に与える影響を明らかにする。具体的には高校部活動クラブへのチーム・アイデンティフィケーションとコミュニティ感覚との関係性を明らかにすることを目的とした。

## 3. 方法

### 3. 1. 調査対象

福井県立鯖江高等学校体操部を調査対象クラブとして設定し、調査対象者を鯖江市在住の鯖江市民とした。鯖江市市政は、「体操のまち」を宣言しており、シティプロモーションの一環として「体操のまち推進事業」が実施されている。鯖江市内の小学校では、外部指導者が正課の体育授業で器械体操を指導しており、一般学童が参加可能な体操の大会も開催されるなど、一般の市民にも体操を実施する機会が多くある。

鯖江高校体操部は、福井県開催の国体以来、体操の強化拠点校であり、伝統と歴史のある部である。2010

年高校総体では総合優勝を成し遂げており、名実とも鯖江市の体操を代表するクラブである。つまり、「体操のまち」を宣言する鯖江市にとって、鯖江高校は、体操振興の象徴的なクラブであることから本調査では鯖江高校体操部を調査対象クラブとして設定した。

### 3. 2. 調査手順

チーム・アイデンティフィケーション（チームID）については、調査項目の内容的妥当性を高めるためにピアテストと鯖江市でスポーツ関係の職業に就くスタッフを対象に聞き取り調査を行い、項目を吟味した。次に、実際の調査対象者に対してプレテストを実施し、調査票を整えた。チームID尺度については、藤本ら（2012）の日本のプロスポーツチームを対象に6因子24項目で構成される尺度を参考にした。この尺度はHeere and James（2007）が、アメリカのカレッジスポーツチームを対象に開発されており、高校部活動クラブにも援用が可能であることが考えられる。藤本ら（2012）のチームIDの構成概念は以下の6つである。

- ・ 個人的評価：チームを応援していることの自己評価
- ・ 公的評価：チームの一般的な評価や評判に対する認識
- ・ 心理的結びつき：自己とチームの心理的結びつきやチームへの愛着心
- ・ 依存意識：自己や生活のチーム依存に関する認識
- ・ 行動的関与：チームに対する行動的関与の程度の認識
- ・ 認知・気づき：チーム関連情報の認知度

藤本ら（2012）の尺度をベースに、スポーツ社会学と生涯スポーツが専門分野である教授、院生の7名によるピアテストを実施した。その結果、チームIDの下位概念の「依存意識」は学校部活動の文脈には相応しくないことから4項目すべてを取り除き、「行動的関与」の1項目、「認知・気づき」の2項目を削除した。その後、鯖江市スポーツ課と総合型地域スポーツクラブの職員を対象に聞き取り調査を行い、内容的妥当性について検討を行い、高校部活動クラブに見合うようにワーディングを修正した。さらに、鯖江市内のイベント参加者を対象にプレテストを行った結果、最終的に5因子15項目が設定された。

本調査では、筆者と調査協力者が、鯖江市にある学校施設、公民館、体育館など公共施設や公園ならびに商店街とその周辺など幅広いサンプルを収集するために、様々な環境下で調査が実施された。

### 3. 3. 調査内容

調査内容は、個人的属性 8 項目、鯖江市の体操振興に関する 5 項目、藤本ら (2012) の尺度を修正した 5 因子 15 項目のチーム ID 尺度である。コミュニティ感覚については、Sugawara et al. (2009) の 3 因子 11 項目を設定した。コミュニティ感覚を構成する概念は、以下の 3 つである。

- ・地域への愛着…個人的に感じている地域への住みやすさ
- ・価値観の共有…周囲の住民と価値観や地域への期待を共有している程度
- ・近隣との関わり…周りの人と知り合いか周囲への影響力

### 3. 4. 分析方法

まず、尺度の適合度を測定するためにチーム ID 尺度については、確認的因子分析を実施した。その後、チーム ID の合成得点を算出し、そのパーセンタイルをもとに高群 (n=127) と低群 (n=121) の 2 群にサンプルを分類した。チーム ID 高群と低群におけるコミュニティ感覚の測定項目の平均値を比較するために t 検定を実施した。次に、それぞれの尺度の構成する因子間の関係性を把握するため、チーム ID を構成する 5 つの因子の因子得点を独立変数、コミュニティ感覚を構成する 3 因子の因子得点を従属変数とし、ステップワイズ法による重回帰分析を実施した。

## 4. 結果及び考察

### 4. 1. 調査の結果

配票枚数 500 枚に対し、回収数 265 枚 (53.0%) で有効回答数が 248 枚 (49.8%) であった。表 1 はサンプルの属性を表している。男女比に関しては、「男性」が 38.3% (n=95)、「女性」が 61.7% (n=153) であり、平均年齢については 46.2 歳であった。出身高校に関しては、全体の 25.8% が鯖江高校出身者で、鯖江高校以外の鯖江市内の高校出身者が 16.9% で、その他の高校出身者が 57.3% であった。鯖江市へ居住年数に関して、全体の平均は、34.5 年であった。男女別に居住年数について見てみると、男性は「30~39 年」が最も多く 26.3% であったのに対して女性は、「1~9 年」の 10 年未満が 38.5% であった。つまり男性は女性よりも居住年数が長い傾向にある。

図 1 は、鯖江市の体操振興への認知・関与に関する項目の割合を示している。体操専用の体育館の認知度については、「認知している」が 86.3%、「認知していない」が 13.7% であった。世界体操競技選手権大会の

開催に関する認知度については、「認知している」が 77.4%、「認知していない」が 22.6% であった。器械体操の競技経験 (学校体育を除く) については、競技経験者が 10.9%、競技未経験者が 89.1% であった。学校体育で、指導者派遣など器械体操の授業に力を入れているものの、学校体育以外で体操競技の経験がある人は 1 割程度であった。鯖江市内の体操振興に関する情報との接触については、「接触している」が 70.6%、「接触していない」が 29.4% であった。体操のまちとしての認識については、鯖江市を体操のまちとして「認識している」が 71.8%、「認識していない」が 28.2% であった。

表 1. サンプル属性

全体 (n=248)		(n)	%
性別	男性	95	38.3%
	女性	153	61.7%
年齢	10代	31	12.5%
	20代	19	7.7%
	30代	35	14.1%
	40代	62	25.0%
	50代	32	12.9%
	60代	41	16.5%
	70代以上	28	11.3%
	平均	46.2歳	
出身小学校	鯖江市内	164	66.1%
	その他	84	33.9%
出身中学校	B市内	152	61.3%
	その他	96	38.7%
出身高等学校	鯖江高校	64	25.8%
	鯖江市内の高校 (鯖江高校を除く)	42	16.9%
	その他	142	57.3%
	鯖江市への居住年数		
	1~9	80	32.2%
	10~19	25	10.1%
	20~29	31	12.5%
	30~39	56	22.6%
	40~49	26	10.5%
	50年以上	30	12.1%
	平均	34.5年	

本研究では、McMillian and Chavis (1986) の提案したコミュニティ感覚尺度を Sugawara ら (2009) と片桐・菅原 (2010) が日本で信頼性と妥当性を確認している 3 因子構造を採用して分析を行う。コミュニティ感覚尺度については、信頼性を表す  $\alpha$  係数が 0.74 から 0.81 であった。それぞれの  $\alpha$  係数が十分に高かったため、合計して各因子得点として算出した。

次に 5 因子 15 項目で構成されるチーム ID モデルの妥当性を判断するために、SPSS Amos 18.0 を用いて確認的因子分析を実施した (表 3)。モデル適合度を評

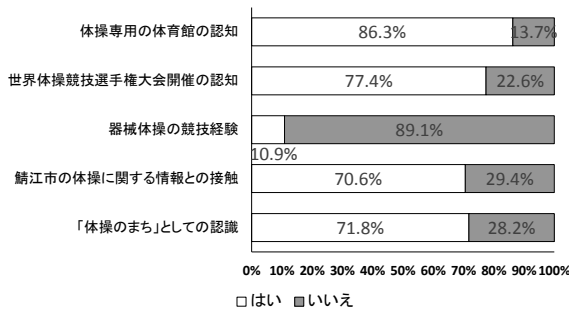


図1. 鯖江市の体操振興に関する関与・認識

価値する適合度指標として、chi-square to degrees of freedom ratio ( $\chi^2/df$ )、comparative fit index (CFI)、及び root mean square error of approximation (RMSEA)を用いた。RMSEA (基準値<.100)と  $\chi^2/df$  ( $2.00 \leq$  基準値  $\leq 3.00$ )、CFI (基準値  $\geq .900$ ) については、Hair et al.(2010)と豊田 (1988) を参考に設定した。

確認的因子分析における本モデルの適合度は、 $\chi^2/df=3.47$ 、CFI=.929、RMSEA=.100 であった。 $\chi^2/df$  と RMSEA が基準値を満たさなかったが、本研究は藤本ら (2012) のチーム ID の構成概念をもとに確認的因子分析を実施していることから一定の適合度を得られたと解釈し、このまま分析を続けた。

次に、収束的妥当性を示す AVE は.64 から.76 と基準値とされる.50 を上回ったことから、収束的妥当性が支持された (Fornell and Larcker, 1981)。また CR に関しても、.80 から.93 とすべての因子で.70 以上の値であったことから内的整合性も示された (Hair et al., 2010)。

表2. チーム ID 尺度の記述統計

項目	平均	SD	$\beta$	CR	AVE
認知・気づき ( $\alpha = .87$ )					
1. 私は、鯖江高校体操部が地域で行っている活動を知っている	2.65	1.29	0.81		
2. 私は、鯖江高校体操部の伝統を知っている	2.91	1.33	0.82		
3. 私は、鯖江高校体操部の栄光も挫折も知っている	2.49	1.22	0.88		
公的評価 ( $\alpha = .89$ )					
4. 鯖江市民は、鯖江高校体操部に良いイメージを持っていると思う	3.71	0.86	0.84	0.91	0.75
5. 鯖江市民は、鯖江高校体操部のことを良く思っている	3.47	0.95	0.84		
6. 鯖江市民は、鯖江高校体操部について好意的な意見を持っていると思う	3.63	0.85	0.91		
個人的評価 ( $\alpha = .89$ )					
7. 私は、鯖江高校体操部を応援することは良いことであると感ずる	4.17	0.79	0.72	0.93	0.76
8. 私は、鯖江高校体操部を応援することをうれしく思う	3.87	0.92	0.95		
9. 私は、鯖江高校体操部を応援することを誇りに思う	3.69	0.99	0.92		
心理的結びつき ( $\alpha = .87$ )					
10. 私は、鯖江高校体操部に愛着を持っている	3.07	1.03	0.85	0.80	0.64
11. 私は、誰かが鯖江高校体操部を称賛すると自分もうれしい気持ちになる	3.27	1.18	0.76		
12. 私は、鯖江高校体操部の成功を私のことのようにうれしく思う	3.18	1.17	0.78		
行動的関与 ( $\alpha = .87$ )					
13. 私は、鯖江高校体操部の活動を支援している	2.70	1.17	0.78	0.83	0.69
14. 私は、鯖江高校体操部の試合結果を知ろうとしている	2.91	1.17	0.90		
15. 私は、鯖江高校体操部について自ら他人に話をしている	2.32	1.13	0.81		

#### 4. 2. チーム ID の高低差からの検討

表3には、チーム ID 高群と低群、それぞれのコミュニティ感覚の平均値、標準偏差及び対応のある t 検定の結果を示している。チーム ID 高群が低群よりコミュニティ感覚の全ての項目で、得点の平均値が高いことが明らかになった。そのうち、「私はこれからもこ

の地域に住み続けると思う」を除いた全ての項目で統計的に有意な差がみられた。つまり、チーム ID 高群の方が低群よりもコミュニティ感覚が高いことが明らかになった。

表3. コミュニティ感覚の t 検定の結果

項目	M(低群)	M(高群)	t値	p値
地域への愛着 ( $\alpha = .81$ )				
1. この地域は私にとって居心地が良い	3.89	4.22	-3.14 **	
2. この地域は私が住むのに適している	3.48	3.93	-4.19 ***	
3. この地域に住むことは私にとって大切である	3.60	3.86	-2.43 *	
4. 私はこれからもこの地域に住み続けると思う	3.97	4.16	-1.49 n.s.	
価値観の共有 ( $\alpha = .74$ )				
5. この地域で何か問題が生じた時は、住民がそれらを解決することができる	3.04	3.28	-2.15 *	
6. この地域に住む人々は、みな同じ価値観を共有している	2.50	2.83	-3.11 **	
7. 私とこの地域に住む人々は、この地域に同じものを期待している	2.56	3.05	-4.80 ***	
8. この地域に住む人々はお互いによりよい関係を保っていると思う	3.43	3.69	-2.81 **	
近隣との関わり ( $\alpha = .78$ )				
9. 私はこの地域に住む多くの人々と顔見知りである	2.69	3.43	-5.32 ***	
10. この地域の住民のほとんどが私のことを知っている	2.04	2.60	-4.22 ***	
11. 私はこの地域のあり方に対して影響力を持っている	1.58	2.23	-5.36 ***	

\*\*\*. 相関係数は 0.1% 水準で有意 (両側) です。  
 \*\*. 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。  
 \*. 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

#### 4. 3. 重回帰分析の結果

さらに、両尺度の因子間の関係を明らかにするために相関分析が実施された (表4)。有意な相関のあった変数を抽出し、チーム ID を構成する 5 因子の得点を独立変数、コミュニティ感覚を構成する 3 因子の因子得点として、ステップワイズ法による重回帰分析を実施した (表5)。

「地域への愛着」を従属変数にした重回帰分析では、男性は「心理的結びつき」( $\beta=.290, p<.01$ ) が有意な影響を与え、女性では「行動的関与」( $\beta=.242, p<.01$ ) と「公的評価」( $\beta=.209, p<.05$ ) が有意な影響を与えていた。「価値観の共有」を従属変数にした重回帰分析では、男性は「心理的結びつき」( $\beta=.469, p<.001$ ) が有意な影響を与え、女性では「心理的結びつき」( $\beta=.201, p<.05$ ) と「個人的評価」( $\beta=.183, p<.05$ ) が有意な影響を与えていた。「近隣との関わり」を従属変数にした重回帰分析では、男性は「心理的結びつき」( $\beta=.438, p<.001$ ) が有意な影響を与え、女性では「行動的関与」( $\beta=.495, p<.001$ ) が有意な影響を与えていた。

男性は、コミュニティ感覚を構成するすべての因子で「心理的結びつき」が有意な影響を与えていた。自己とチームの心理的結びつきや愛着心を持つ人は、地域への住みやすさや、周囲の住民と価値観や地域への期待の共有、周囲の人との関係性があることが明らかとなった。藤本ら (2012) の研究においても「心理的結びつき」はすべてのコミュニティ感覚の構成要因に影響を与えることが明らかになっており、本研究も男性に関しては同様の結果であった。

一方、女性では「地域への愛着」には「行動的関与」と「公的評価」が影響を与えていた。チームに対する

表 4. 因子間相関

	1	2	3	4	5	6	7	8
1. 地域への愛着		.507**	.411**	.302**	.335**	.212**	.317**	.154
2. 価値観の共有	.436**		.461**	.290**	.273**	.281**	.260**	.171*
3. 近隣との関わり	.269**	.478**		.371**	.495**	.136	.210**	.346**
4. 心理的結びつき	.290**	.469**	.438**		.651**	.487**	.689**	.559**
5. 行動的関与	.086	.409**	.418**	.679**		.399**	.448**	.590**
6. 個人的評価	.130	.313**	.279**	.632**	.436**		.470**	.532**
7. 公的評価	.200	.271**	.377**	.647**	.415**	.515**		.438**
8. 認知・気づき	.195	.309**	.299**	.391**	.554**	.427**	.176	

\*\* 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

\* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

右上が女性  
左下が男性

関与を通じて地域への愛着を高め、周囲からの良い評価を受けることでも地域への愛着が高まるといえる。

「価値観の共有」には、「心理的結びつき」と「個人的評価」が影響を与えていた。体操部に対する愛着心や個人的な体操部への良い評価が、地域における共通の価値観を形成していることが推察される。また、「近隣との関わり」には「行動的関与」が影響を与えていることが明らかになった。体操部に関わる行動から周囲の市民との関わり合いを持つ機会を生みだしていることが推察される。

「心理的結びつき」については、男性、女性に関わらず「価値観の共有」に影響を与えていた。体操部への愛着は、地域の価値観を形成していると考えられ、このことは、鯖江市を体操のまちとしての認識している市民が7割以上いることから妥当であると考えられる。つまり鯖江高校体操部への愛着を高めることは地域への共通の価値観や期待を生み出し、地域の一体感を生み出すことが考えられる。これは、スポーツが住民と地域社会を一体化するアイデンティフィケーションの基盤となる社会統合機能(須田, 1994)からも支持されるものであると考えられる。

「行動的関与」については、女性は「地域への愛着」や「近隣との関わり」を生み出すきっかけとなっていると考えられる。Wann (2006) では、チームの活動への参加を通して、他者とのさらなるつながりが生みされ、その結果、社会心理的効用が生み出されると説明されている。本研究でも「行動的関与」が「近隣との関わり」に影響を与え、かつ「地域への愛着」に影響を与えていた。つまり、体操部の活動を支援したり、体操部の試合成績や活躍を受信したり、発信したいりする人は「近隣との関わり」を持ち、「地域への愛着」も持つことが考えられる。

## 5. まとめ

本研究の目的は、地域のスポーツチーム・クラブが地域社会に及ぼす影響を明らかにすることである。具

表 5. コミュニティ感覚を従属変数とした重回帰分析

	コミュニティ感覚3因子					
	地域への愛着		価値観の共有		近隣との関わり	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
心理的結びつき	.290**		.469***	.201*	.438***	
行動的関与		.242**				.495***
個人的評価				.183*		
公的評価		.209*				
認知・気づき						
$R^2$	.084**	.147***	.220***	.110***	.192***	.245***

\*\*\* 相関係数は 0.1% 水準で有意 (両側)

\*\* 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)

\* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)

体的には、高校部活動クラブへのチーム・アイデンティフィケーションがコミュニティ感覚に及ぼす影響を明らかにすることであった。本研究が投げかけるインプリケーションは以下の3点である。

1 点目は、チーム ID がコミュニティ感覚に及ぼす影響は、性別によって異なることである。男性は、「心理的結びつき」がコミュニティ感覚の3因子すべてに影響を与えていた。一方で、女性は、「行動的関与」と「公的評価」が「地域への愛着」に、「心理的結びつき」と「個人的評価」が「共通の価値観」に、「行動的関与」が「近隣との関わり」に影響を与えていた。つまり、性別に応じたプロモーションも検討する必要性も示唆された。

2 点目に「心理的結びつき」については、男性は地域への愛着や価値観、近隣との関わりなど地域への態度に影響を与えている。特に、価値観の共有に関しては、男性、女性に関わらず影響を与えていた。つまり鯖江高校体操部への愛着を高めることは地域への価値観や期待を生み出し、地域の一体感を生み出すことが考えられる。2018年には、2巡目の福井国体を控えており、体操競技は鯖江市での開催が決定している。国体に向けて市民を国体に巻き込むプロモーションをかけると同時に、鯖江高校体操部の大会成績や歴史などを発信していくことで市民の体操部に対する心理的結びつきを高め、地域に対するコミュニティ感覚を醸成することも必要であると考えられる。

3 点目に「行動的関与」については、市民同士が近隣との関わりを生み出すきっかけとなっていると考え

られる。Wann (2006) では、チームの活動への参加を通して、他者とのさらなるつながりが生みされ、その結果、社会心理的効用が生み出されると説明されている。本研究でも「行動的関与」が「地域への愛着」に影響を与えていた。鯖江市では、多くの市民が体操に関わる情報に触れており、話題に上がると考えられる。また、全国大会や体操に関わる様々なイベントを開催していることから市民がボランティアとして運営の補助などでも活動をしている。多くの市民が直接的、間接的に関わる機会を作り出されていることで、チームへの関与が増加し、地域への愛着や近隣との関わりを生み出されていると考えられる。今後は、より多くの市民を巻き込みながら体操振興を行っていくことで、市民への社会心理的効果が期待でき、体操のまちとしても更なる発展が期待できると考えられる。

研究の限界と今後の展望については、本研究では因果関係を特定するまでには至っていない点である。本研究は、先行研究をもとにチーム ID がコミュニティ感覚に影響を与えると仮説を設定した。しかし、実際に影響を与えているかを検証するために縦断的な研究が必要である。しかし、縦断的な追跡調査を行うことは極めて困難であることから、関係者等のインフォーマントに対するインタビュー調査など質的なアプローチによって補足することが可能であると考えられる。特に、本調査では市民を対象に調査が実施されたが、鯖江市では市の施策としても体操振興が進められていることから、行政の担当者へのインタビュー等を実施し効果検証していくことが必要であると考えられる。

#### 【参考文献】

- 藤本淳也・原田宗彦・James, J. D.・奥永憲治・梅本祥子 (2012) Jリーグクラブの「ファンづくり」が「まちづくり」に及ぼす影響に関する研究：ホームタウン住民のチームアイデンティティと地域意識に注目して。SSF スポーツ政策研究, 1 : 160-167.
- Hair, J. F., Black, W. C., Babin, B. J., and Anderson, R. E. (2010) Multivariate data analysis —A global perspective—, Person Education, Inc., Upper Saddle River
- Heere, B., & James, J. D. (2007) Stepping outside the lines: Developing a multi-dimensional team identity scale based on social identity theory. *Sport Management Review*, 10, 65–91.
- 片桐恵子・菅原育子 (2010) 社会参加と地域への溶け込みの関連—地域での社会的ネットワークの及ぼす影響に着目して。応用老年学, 4(1), 40-50.

工藤康宏, 舟木泰世, 梶原健, 野川春夫 (2014) プロスポーツチームとまちづくりに関する研究—チームと拠点地域住民の共同参画型プロジェクトの開発と展開—, SSF スポーツ政策研究, 3(1) : 98-107

McMillan, D. W. & Chavis, D. M.(1986) Sense of Community A definition and theory, *Journal of Community Psychology*, 14: 6-23.

二宮浩彰 (2011) プロスポーツ観戦者行動におけるチームに対する愛着とホームタウンへの地域愛着. 同志社スポーツ健康科学 3 : 14-21.

長積仁, 榎本悟, 松田陽一 (2006) スポーツ振興とソーシャル・キャピタルの相互補完的関係～ソーシャル・キャピタル研究の視座と可能性～. 徳島大学総合科学部人間科学研究, 14 : 9-24.

須田直之 (1994) 地域社会におけるスポーツの役割. 都市問題, 85(12) : 15-26.

Sugawara, I, Murayama, H, Yoshie, S. et al (2009) Age differences of attitude toward community and community activity participation: Study in a suburban city of Tokyo K, Katagiri (Chair) Civic Engagement of the Young-old in Japan and Korea : Will they make a difference in rapidly aging societies? *Symposium conducted at Gerontological Society of America 62nd Annual Scientific Meeting*, Atlanta, USA

豊田秀樹 (1988) 共分散構造分析 (入門編) —構造方程式モデリー—. 朝倉書店.

Wann.D.L. (2006) Understanding the positive social psychological benefits of sport team identification: The Team Identification-Social Psychological Health Model. *Group Dynamics: Theory, Research, and Practice*, 10: 272-296

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。

